

# 一般毒性試験 第3の柱に

## 新たにサル試験にも対応

トランスジェニックグループの安評センターは、昨年から新たにサルの飼養を開始した。サルの飼育エリアを中大動物棟に新設し、サルを用いた一般毒性試験の受託サービスを開始することで、既存ビジネスと共に広く毒性試験を受託していきたい考えた。水橋福太郎研究本部長

は、「われわれの得意とする遺伝毒性試験、環境毒性試験に続き、サルを含めた一般毒性試験を第3の柱に成長させ、アカデミアに加え、製薬企業向けの受託体制を確立したい」と意気込みを示している。

### 安評センター

昨年度のトランスジェニックグループにおけるCRO事業の売上高は19億円で、強みとしている遺伝毒性試験は大幅に伸ばしたものの、一般毒性

試験が伸び悩んだ。こうした中、サル試験を一般毒性試験の新たな受託サービスラインナップに加えることで、巻き返しを図る。



水橋氏

同社は、昨年夏からカニクイサルの飼育エリアを新設。今年に入って施設をさらに拡張し、PK/TK試験、反復投与試験と少しずつラインナップを広げている。約20頭を収容できる小さな当初の施設から、現在は50頭

構築した。

水橋氏は、「アカデミアを中心に切れ目なく試験を受託し、製薬企業にも訴求していく。他のCROと肩を並べるまでにサル試験を強化し、高分子医薬品も受託していきたい」と語る。

今後は、親会社の新薬リサーチセンターが手がけている薬効薬理試験とのシナジーを模索するほか、自前で安全性薬理試験を受託できる体制を構築し、サービスの幅を広げていく。水橋氏は「薬理試験と一般毒性試験のセットでの受託を目指す。サルやラットなどの動物種を用いた複数の試験を一括で受託していきたい」と強調。トランスジェニックが保有する

遺伝子改変動物を活用することもあり、「グループ全体でシェアを拡大したいという方向性が形となってきている。製薬企業の非臨床試験全体をフォローアップできる体制を確立できると話す。

一般毒性試験の底上げを図る一方、強みとする遺伝毒性試験では、コンサルティング業務から受託につなげていく。水橋氏は「遺伝毒性試験は、他社に負けないものを持っている。われわれの得意とする分野をさらに伸ばしていく。環境毒性試験に加え、サル試験を起爆剤に一般毒性試験を遺伝毒性試験と同じレベルにまで高め、黄金期の時のように製薬企業の顧客を取り戻したい」と意

欲を示す。

安評センターは、設立から約40年の歴史を持ち、「黄金期」の2000年頃には従業員約150人を抱え、癌原性試験を強みに業界屈指の受託量を誇っていた。しかし、受託環境の変化に乗り遅れたこともあり、製薬企業向けの受託が減り、従業員数も縮小していた。現在は黄金期への復活に向けて、積極的に人材を採用している。

ころだ。

一方、同社の施設が位置する静岡県磐田市という地の利も生かす考え。非臨床CROの施設は、都市部との距離がしばしば課題となるが、同社の近郊にある浜松駅は、関東からも関西からも新幹線を利用でき、何かあったときに顧客がすぐに見事に「委託していたCROの距離が遠すぎて困っていた」との相談もあったという。

この地の利に加え、一昨年から分析業務の体制強化が実現してきた今年、グループ各社の機能を味方に、安評センターは事業拡大に向け新たなスタートを切った格好である。